2019,4,12

二の谷山の準備に行きました

キンキマメザクラ・ニオイこぶし・ハウチワカエデ・シャクナゲ・オオカメノキなど早春の花々が咲きだしていました。当日が楽しみです。サンインシロガネソウの群生地にはたくさんかわいいお花が咲いていました。当日は、たくさんのお花が咲き誇ります。サンインシロガネソウもあんなに群生して所は珍しいです。みなさまとお花談義に花咲かせましょう。みなさまのご参加をお待ちしています。

◆自然観察

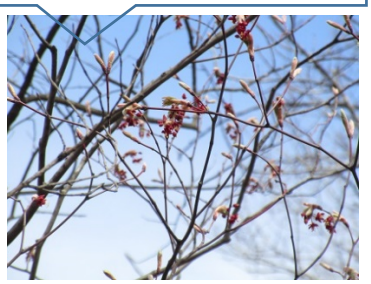
タムシバ・オオカメノキの白い花があちこち咲き誇る

かわいいお花がたくさん咲く

アセビ

タムシバ：ニオイこぶし

オオカメノキ



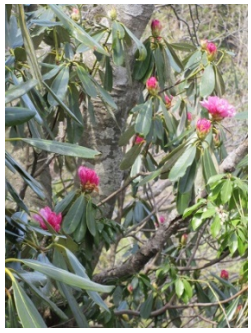
ハウチワカエデ

キンキマメザクラ：ピンクのかわいいお花
蕾がたくさんあり、あちこちで楽しめる

マンサク

ミヤマカタバミ

ヒメエンゴサク



シャクナゲ群生地では、このようにみなさまをお待ちしています。

ミツマタ

モミジチャルメラソウ

サンインシロガネソウ①

サンインシロガネソウ②

群生地にはお花がたくさん咲いています

たくさんのお花がみなさまをお待ちしています

◆トレッキングコースの様子

登山口

綺麗な樹林の尾根コースです
周りの山々、琵琶湖など素晴らしい眺望を楽しみながらの山歩です。

二の谷山山頂

二の谷山山頂からの眺望

◆歴史　　保坂

金比羅宮と庚申塚

保坂は、室町時代の後半から江戸時代にかけて、今津と小浜を結ぶ九里半街道と、京から小浜に至る若狭街道（鯖の道）が合流する所として繁栄してきました。

保坂で合流した2つの街道は、中の川に沿って、弁天宮、金毘羅宮、庚申塚、水坂峠と進み、山中の関を通って若狭国に達していました。

ここを下って中の川を渡ったところに、金比羅宮があります。金毘羅宮の灯籠の一つは、文政五年（1822）に立てられたもので、「若州小浜[illegible]飛脚宮川屋宗右衛門 諸屋長左衛門」の銘が、もう一つには「若州小濱 倉屋長三郎」の銘が彫られ、保坂の村人だけではなく、街道を利用した小浜の商人たちの信仰もあつかったことがうかがえます。

金比羅宮から約150m上流には、庚申塚があります。塚石の隣には、7庚申の年ごとに立て替えられる供養塔があります。また、供養塔の基部には、街道のヤスミトがあります。荷物を背にした人々が背負子を立てかけたり、巡礼者が一息ついた、腰掛け石が今も残っています。

平成14年3月　保坂区

◆里山整備

コースに落ちている倒木や枯れ枝など可能な限り除去しました。